

3月定例会

可決された予算は4年連続で過去最大

令和2年第1回定例会は2月26日から3月27日まで31日間の会期で開催されました。初日の本会議には市長の施政方針に沿った令和2年度予算など21件の議案が提案され、このうち15件が委員会へ付託されました。また、市の新たな総合計画「えびな未来創造プラン2020」を採決し、賛成多数で可決されました。審査の概要は6面をご覧ください。

最終日には、令和2年度予算などに対する討論、採決が行われた後、市長から新たに2件の議案が提案されました。提案された議案名および審議結果は、最終面「令和2年第1回定例会の会議結果」をご覧ください。

総額は736億2300万円

2月26日に提案された令和2年度当初予算の5会計合わせた予算総額は736億2300万円、このうち一般会計の予算額は458億9400万円、予算総額は4年連続、一般会計は3年連続で過去最大となる予算規模です。

この5会計の予算に対して議会は、3月2日の本会議で各会派を代表した6名の議員が市長などに「代表質疑」を行いました。その後、予算決算常任委員会に付託された予算について、この委員会に設けた3つの分科会（総務、文教社会、経済建設の各分科会）で1日ずつ審査しました。

3月27日の本会議で、その審査結果が委員長から報告された後、各会派を代表した6名の議員が「討論」を行い、賛否を表明しました。その後の採決の結果、一般会計予算と国民健康保険事業特別会計予算は賛成多数で、その他の3会計の予算は全員賛成で、それぞれ原案可決されました。

ここからは、「代表質疑」の概要を紹介いたします。

問 この数年間は、将来への備えを万全に構築するために積極的な財政投資をする期間とのことですが、本市の今後の財政運営の見通しについて伺います。

答 東西一体のまちづくりへの積極的な取り組みなどにより、市税は微増傾向で推移する一方、扶助費の顕著な増加が続くことで、今後の財政推計の中でも厳しい財政運営が見込まれています。そのため補助金や事業の廃止、一部負

担金の導入など歳出構造改革の実施を考えています。歳入面では適正な公共施設使用料や手数料の設定を検討しますが、高齢者の生きがいや居場所という面の配慮は欠かせないと考えています。また、市債は低金利での借入れが可能なので、投資を行う際は積極的に活用してまいります。

問 障がい者の暮らしの自立を独自にサポートする「福祉法人」の設立準備を進めるとのことですが、この法人の目的と内容について考えを伺います。

答 経済的自立や親亡き後の自立など主に仕事、住まい、暮らしの支援を柱にして、現行制度では対応が難しい課題の解決が目的です。令和3年度の設置を目指します。

問 「福祉法人」は、障がいの当事者や家族、支援者が多く集う自立支援協議会の活動と、どうリンクするのですか。

答 自立支援協議会と連携しながら問題を解決する具体的な組織として、障がいの者の自立を目指したいと思っています。

問 勝瀬保育園の民営化の詳細について伺います。

答 本市は地方交付税の不交付団体ですので、市立保育園の改修費、運営費などは全て市の負担になりますが、民間保育園には国の補助金が出ます。人口減少に伴い将来の保育需要が減少すると予想される中、施設の老朽化対策も含め、今後の市立保



改修後の有馬図書館（イメージ）

育園のあり方を整理しました。勝瀬保育園は、老朽化していますが市の中心部に近く、今後も需要が見込まれますので、民営化した上で存続させる考えです。

問 民営化に向けたスケジュールを伺います。

答 令和2年度に学識経験者、保護者代表、市職員で構成する選考委員会を設けて、プロポーザル方式で事業者を選定し、引き続き保育を行いながら令和3年4月から完全民営化する予定でした。2月に行った保護者説明会で移行時期に関する意見が多くありましたので、その点を再度検討し、改めて方向性を示して理解を求めていく考えです。

問 国民健康保険税について、国の統一的な算定基準による標準的な保険料率が県から示され、これより低い本市の税率が変更されますが、市民への影響について伺います。

答 低所得者に配慮して均等割額と平等割額は据え置き、所得割額の税率だけを引き上げますので、国保加入世帯の約45%は影響を受けない見込みです。

問 児童数が増える今泉小学校は、1校体制のままで教室数を増やす計画ですが、文部科学省は小中学校の適正規模は18学級以下で、31学級以上は過大規模校と規定しています。48学級になる前提で大規模化を進めるのは、教育上の大きな問題だと懸念していますが、認識を伺います。

答 普通教室18室のほか特別教室やオープンスペースを設けて、ICT環境も整え、また災害時の避難所としても有効な校舎の建築を考えています。大規模校の課題は十分認識していますので、児童の学習や生活に影響が出ないように検討を進め、対応していきたいと考えています。

問 有馬図書館の大規模改修には多くの期待が寄せられています。今まで以上に使いやすく、本に触れる機会が増える学習の場所が用意されることは、子どもたちにも大きな財産になると思いますが、構想案を伺います。

答 親子で過ごして読み聞かせもできるキッズスペースや子どもの目線に合う高さの書架など、図書との関係を深められるような環境を整えたいと思います。同館は学校の学習支援のキーステーションなので、子どもたちが学習や本が好きになるような施策につなげたいと考えています。